

平成 16 年 12 月 6 日

各 位

国際石油開発株式会社  
代表取締役社長 松尾 邦彦  
(コード番号：1604)  
問合せ先：広報室長 伊藤 成也  
(電話：03-5448-1238)

インドネシア共和国 南ナトゥナ海 B 鉱区ベラナック油・ガス田における  
原油生産開始について

当社は、100%子会社ナトゥナ石油(株)を通じて事業を推進しておりますインドネシア共和国南ナトゥナ海 B 鉱区ベラナック油・ガス田において、これまで開発作業を推進してまいりましたが、この度 12 月 2 日より原油及びコンデンセートの生産を開始いたしましたので、お知らせいたします。

同油・ガス田からの原油及びコンデンセートの生産量は、今後、順次増加し、2006 年には日量約 50,000 バレルに到達する予定となっております。また、同油・ガス田の開発プロジェクトでは、今般開始された原油及びコンデンセートの生産に引き続き、2005 年には、天然ガスの生産を開始し、既存契約であるシンガポール及びマレーシア向けガス販売に対する追加供給源とすることを予定し、さらに、2006 年には LPG の生産開始を予定しております。

同油・ガス田からの生産については、当社グループの生産量の拡大に貢献するだけでなく、減少傾向にあるインドネシア共和国の石油生産量の維持に貢献するものとして期待されています。

補足説明

鉱区の概要

南ナトゥナ海 B 鉱区は、南ナトゥナ海域に位置し、鉱区面積は、11,162km<sup>2</sup>、ジャカルタの北方約 1,200km、シンガポールの北東約 400km に位置しております。ベラナック油・ガス田は、ナトゥナ島西方約 220km、水深約 90m にあります。

参加の経緯及びパートナーの概要

当社 100%子会社のナトゥナ石油(株) (資本金：50 億円) は、1978 年 9 月、本鉱区の参加権益 17.5% を取得し、更に、1994 年 1 月、17.5%の同鉱区参加権益を追加取得し、同社の参加権益は 35%となりました。本鉱区の現在の参加権益保有者は、同社のほか、オペレーターの ConocoPhillips 社(40%) 及び ChevronTexaco 社 (25%) となっております。

本鉱区の実業分与契約は、1968 年 10 月に、当時の Conoco 社が Pertamina (インドネシア国営石油会社) との間で締結いたしました。その後、2018 年まで延長 (更新契約) されました。また、シ

ンガポール向けガス販売及びマレーシア向けガス販売（下記 参照）が契約されたことにより、更に 10 年間期間が延長され、2028 年までとなっております。

#### 原油生産及び天然ガス販売

本鉱区では、既存のペリダ油田及びスンビラン油田から、本年 11 月末現在、日量約 35,000 バレルの原油生産を行っており、今般、新たにペラナック油・ガス田がこれらに加わり同鉱区の生産が増強されます。本鉱区内のガス田から生産された天然ガス及び油田から生産された随伴ガスは、シンガポール及びマレーシアに対して、国際パイプラインにて供給されております。

1999 年 1 月、Pertamina とシンガポールの Sembcorp 社の間で締結された天然ガス販売契約（契約期間 27 年：2001～2028 年）に基づき、本鉱区及び周辺の南ナトゥナ海 A 鉱区及び Kakap 鉱区で生産される天然ガスがシンガポールに向けて供給されております。（供給量は、日量 3 億 2,500 万立方フィート、3 鉱区のうち本鉱区の供給に占める比率は、43.1%）

2001 年 3 月、Pertamina と Petronas（マレーシア国営石油会社）の間で締結された天然ガス販売契約（契約期間 20 年：2002～2022 年）に基づき、本鉱区で生産される天然ガスがマレーシアに向けて供給されております。（供給量は、日量 2 億 5,000 万立方フィート（2007 年プラトベース予定））

以上

マレーシア

インドネシア

ニラ鉱区  
(5,271km<sup>2</sup>)



南ナトゥナ海B鉱区  
(11,162km<sup>2</sup>)

ペラナック油ガス田

ナトゥナ島

ナトゥナ海



アナンバス諸島

